

【ホストタウン交流事業モデルプロジェクト】

- ・ 期日：2019年8月19日（月）
- ・ 場所：パラオ共和国ペリリュウ小学校
- ・ 協力：常陸大宮市国際交流協会 JICA

パラオ共和国ペリリュウ小学校において、ホストタウン交流事業を開催しました。

本市は、パラオ共和国のホストタウンとして、様々な交流事業を展開しています。今回は、国のモデルプロジェクトとして事業採択を受け、本市と関係が深いペリリュウ州の小学校において、パラオと日本(常陸大宮市)の共通課題の一つである「環境」をテーマに交流事業を実施しました。

世界複合遺産を有するパラオは、環境に対する取組を積極的に進めております。プラスチックゴミの削減が課題であることから、日本や本市でも既に取り組んでいるエコバックの活用を紹介し、ペリリュウ小学校の児童達全員に、オリジナルエコバックを作成してもらいました。

児童達は、自分の好きな絵を描いたり、装飾するなどしてエコバックを作成しました。パラオの小学校では、図工や美術の授業がないため、児童達は、真剣に、そして、とても楽しそうに取り組んでいました。また、市国際交流協会による日本の伝統的エコバックでもある「風呂敷」包みのデモンストレーションにおいては、特に学校の先生方に好評で、日本の伝統文化への理解も深めることができました。

当日は、鈴木俊一 東京オリンピック・パラリンピック競技大会担当大臣(当時)が、本市の交流事業を視察しました。鈴木大臣は、「このような取組を通して、常陸大宮市とパラオとの交流が、これからも長く続き、東京大会のレガシーを築いていただきたい」と述べられました。



【ペリリュウ小学校の児童：イルカなど好きなデザインを描きました】



【ペリリュウ小学校の児童：世界に一つだけのマイバック作成】



【視察する鈴木 俊一 東京オリンピック・パラリンピック担当大臣（右から2人目）、
柄澤 彰 在パラオ日本国大使館特命全権大使（右から3人目）】



【作成したエコバックを掲げペリリュウ小学校全児童と記念撮影】